

須崎農業振興センター農業改良普及課

外部評価対象所属の概要

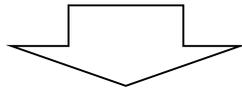
管内市町村 管内 J A	須崎市、中土佐町、津野町、梶原町 J A土佐くろしお、J A高知県津野山営農経済センター、J A高知県四万十 営農経済センター（中土佐町大野見地区）								
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内は南部の海岸地域から、北部の山間地域、中間地域に大別される。比較的平坦な海岸地域では、冬期の温暖で多照条件を生かして、ミョウガ、キュウリ、シシトウ、インゲン、ニラ、花きなどの施設園芸が盛んに行われている。海岸部に近い傾斜地では、ポンカンや土佐文旦などの果樹も栽培されている。</p> <p>四国カルストや清流四万十の源流を擁する北部の山間地域では、夏期冷涼な気候を生かして、ミョウガ、甘長とうがらし、米ナス、小ナス、シシトウ等の雨よけ栽培や、特産のつの茶、加工用ワサビなどが栽培されている。</p>								
人員配置 平成 30 年度 15名 令和元年度 15名 令和2年度 15名	<p>令和3年度職員総数 15名（うち実務経験が3年未満の職員 3名）</p> <table border="1" data-bbox="504 947 1362 1288"> <tr> <td>農業改良普及課長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当 チーフ</td> <td>1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当 チーフ</td> <td>1名 普及指導員 3名 (担当エリア：津野山・中土佐町大野見地区)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当 チーフ</td> <td>1名 普及指導員 5名 (担当エリア：須崎・(旧)葉山・中土佐地区)</td> </tr> </table>	農業改良普及課長	1名	地域営農担当 チーフ	1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当 チーフ	1名 普及指導員 3名 (担当エリア：津野山・中土佐町大野見地区)	産地育成第二担当 チーフ	1名 普及指導員 5名 (担当エリア：須崎・(旧)葉山・中土佐地区)
農業改良普及課長	1名								
地域営農担当 チーフ	1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)								
産地育成第一担当 チーフ	1名 普及指導員 3名 (担当エリア：津野山・中土佐町大野見地区)								
産地育成第二担当 チーフ	1名 普及指導員 5名 (担当エリア：須崎・(旧)葉山・中土佐地区)								
普及活動の 進ちよく管理	<ul style="list-style-type: none"> 普及計画（課題）ごとに指導記録を随時作成し、活動内容や進捗状況等を課内で共有している。 普及計画における重点課題は毎月1回、一般課題は不定期ではあるがチーム会を開催し、進ちよく状況の確認や今後の活動計画、新たな動きや課題が出てきた時には対応策をメンバーで協議し、必要に応じて計画を見直している。 四半期毎に、職員会で実績を報告し、普及活動の結果や進ちよく状況、課題、評価、今後の対応等をまとめ、環境農業推進課へ報告している。 第2四半期後の10月には中間検討会を開催し、農業革新支援専門員（専門技術員）から活動内容や専門的な情報提供等の指導・助言を受け、下半期の活動に生かしている。 週始めには課内でミーティングを行い、この週の活動計画等について情報を共有すると共に、報告事項や協力依頼、変更が必要な日程等はこの会で調整している。 第3四半期及び第4四半期の実績報告では、到達目標に対しての達成率を示し、次年度に向けた普及指導計画書の見直しを行っている。 								

職員の資質向上の取組状況	<p>●職場研修（令和2年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 土佐茶について（講義・実習） <ul style="list-style-type: none"> 消費地から見た土佐茶 茶の種類と加工、茶の淹れ方 ほ場整備事業等について（基盤整備課） <ul style="list-style-type: none"> ほ場整備、ため池に関する事業説明 管内の取組事例（現地視察研修） <p>●新任者を対象にしたOJT（令和2年度）</p> <p>（対象：採用1年目職員 1名、2年目職員 1名、3年目職員 1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 新任者ごとに、トレーナー、担当チーフ、普及課長、窓口専門技術員で構成する育成チームをつくり、四半期毎に資質習得課題と習得目標（目指す姿）を設定し、普及指導活動をとおしてOJTに取り組んだ。定期的な面談により、本人の習得レベルを確認しながら実施した。 コミュニケーション能力、課題解決能力、実証ほの設置・生育調査方法、普及活動の手法、専門技術などについて、トレーナーや他の職員の現地巡回指導に同行して実践的なスキルを学んだ。 先輩の全職員が知識だけでなく、これまでに体験した成功事例・失敗事例を含めて、経験の伝承にも努めた。 <p>●国段階研修（令和2年度）</p> <table border="1" data-bbox="421 1115 1398 1312"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規普及職員研修（中国四国ブロック）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>普及指導員養成研修Ⅰ（新卒者限定コース）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>国際水準GAP推進研修（現地研修）</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和元年度の参加人数 5名</p> <p>●県段階研修（令和2年度）</p> <table border="1" data-bbox="421 1424 1398 1621"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミョウガの病害虫診断技術の向上と事例集の作成</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>クラウド環境における効率的な普及指導活動の推進</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導力の向上</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和元年度の参加人数 4名</p> <p>上記の他に、普及指導員専門技術高度化研修（野菜Ⅰ、Ⅱ）の参加人数 3名</p>	研修名	人数	新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名	普及指導員養成研修Ⅰ（新卒者限定コース）	1名	国際水準GAP推進研修（現地研修）	1名	研修名	人数	ミョウガの病害虫診断技術の向上と事例集の作成	4名	クラウド環境における効率的な普及指導活動の推進	1名	花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導力の向上	1名
研修名	人数																
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名																
普及指導員養成研修Ⅰ（新卒者限定コース）	1名																
国際水準GAP推進研修（現地研修）	1名																
研修名	人数																
ミョウガの病害虫診断技術の向上と事例集の作成	4名																
クラウド環境における効率的な普及指導活動の推進	1名																
花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導力の向上	1名																
タブレット等ICT技術の活用状況について	<ul style="list-style-type: none"> ユズ園や茶園のマッピング作業やミョウガ、キュウリ、米ナス、甘とうなどは生育調査データを現地で入力し、その後編集や指導に役立てている。 病害虫、肥料、写真等を検索したり、農家に対し調査データのグラフ等への可視化により、前年や他農家との違いを示すなど、現場での栽培指導に生かしている。 研修会や担当者会、品目担当者間の打合せ等において、オンライン会議に活用している。 																

外部評価対象課題の普及実績（2年度）及び計画（3年度）の概要

所属名	須崎農業振興センター農業改良普及課			
課題名	多様な担い手による中山間農業の再編			
取組期間	令和2 ～ 5年度			
対象	JA高知県津野山園芸部（ミョウガ部会、なす部会、甘とう部会）、ユズ部会、茶部会			
ねらい	○複合経営モデルの活用による新規就農者、既存農家での目標所得の確保 ○基幹品目における栽培管理技術の向上及び新技術の導入等による収益性の向上 ○管理困難となったユズ園地の多様な担い手による集約管理 ○担い手の育成による再生茶園の管理及び茶の販売促進			
令和2年度の主な実績	○基幹品目「米ナス」＋補完品目「ユズ（収穫作業受託）」の経営モデル活用事例ができた。 ○ユズ、茶、ハウス情報のPC上でのデータ整理が537筆できた（データベース化）。 ○ユズ2ほ場で試験的な収穫作業受託ができ、労働時間や作業単価情報が得られた。 ○茶園の再生が進み、摘採可能茶園面積は0.6haとなった。			
	項目	現状（R元）	目標（R2）	実績（R2）
	複合経営モデルに取り組む事例	—	活用事例数1	活用事例数1
	目標反収達成農家率 （ミョウガ12戸/17戸、米ナス5戸/12戸、甘とう9戸/25戸）	34.5% (20戸/58戸)	57% (31戸/54戸)	48% (26戸/54戸)
	新規就農者数	1名	2名	3名
	ポイントニング及び情報整理が進みマッピングした農地数	300カ所	20カ所	537筆
	マッチングできたユズ園地数	0カ所	仕組み作り	試験的収穫作業受託
	摘採可能面積（茶）	0ha	0.6ha	0.6ha
令和2年度の主要な活動内容と実施時期	1 基幹品目の経営安定 (1) 複合経営モデルの作成及び活用 複合経営モデルに関するデータ収集（実態調査等：5～6月） 複合経営モデル活用農家のリストアップ（6月） 複合経営モデルの作成（6～9月；ミョウガ、米ナス、甘とう、加工用ワサビ、ユズ） 複合経営モデルの活用（11月；米ナス＋ユズ（収穫作業受託）） (2) 栽培管理技術の徹底及び新技術等の導入 巡回指導・生育調査（4～12月）・現地検討会（甘とう：7月、米ナス：9月） 集出荷場点検（4～11月、月1回）・ほ場・農薬保管庫・調製場点検（7月） 目標設定個別面談（12～3月） (3) 担い手の確保 担い手の確保に関する体制の確認（連絡会等：4月、6月） 就農相談（10～3月；梶原町1件4回、津野町2件4回） 2 電子マップを活用したほ場情報整理 農地等の情報整理（7～3月；ユズ221筆、茶134筆、ハウス182筆 計537筆） 3 多様な担い手によるユズ産地の維持 アンケート結果に基づいた委託希望者の整理及び情報共有（連絡会：6月） 委託希望者のほ場確認（9月） 試験的作業受委託の実施（11月；米ナス生産者2戸、2ほ場）			

(前頁から続き)	4 放棄茶園の再生と産地の維持 中切り後の栽培管理指導 (7~3月)、つの茶販売戦略会議 (8月)
----------	--



令和3年度の主な目標	<p>○複合経営モデル活用事例の増加や栽培管理技術向上により経営安定を図る。 ○県内外での募集・PRを行い、U・Iターン就農者の確保を図る。 ○作業受託マッチング園地数を増やし、農地の遊休化を抑える。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">項目</th> <th style="width: 20%;">現状 (R2)</th> <th style="width: 20%;">目標 (R3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>複合経営モデルに取り組む事例</td> <td>活用事例数 1</td> <td>活用事例数 1</td> </tr> <tr> <td>目標反収達成農家率(ヨウガ、米ナス、甘とう)</td> <td>48%</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>3名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>マッチングできたユズ園地数</td> <td>試験的収穫 作業受託</td> <td>2カ所</td> </tr> <tr> <td>摘採可能面積(茶)</td> <td>0.6ha</td> <td>1.2ha</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (R2)	目標 (R3)	複合経営モデルに取り組む事例	活用事例数 1	活用事例数 1	目標反収達成農家率(ヨウガ、米ナス、甘とう)	48%	61%	新規就農者数	3名	2名	マッチングできたユズ園地数	試験的収穫 作業受託	2カ所	摘採可能面積(茶)	0.6ha	1.2ha
項目	現状 (R2)	目標 (R3)																	
複合経営モデルに取り組む事例	活用事例数 1	活用事例数 1																	
目標反収達成農家率(ヨウガ、米ナス、甘とう)	48%	61%																	
新規就農者数	3名	2名																	
マッチングできたユズ園地数	試験的収穫 作業受託	2カ所																	
摘採可能面積(茶)	0.6ha	1.2ha																	

令和3年度の主要な活動内容と実施時期	<p>1 基幹品目の経営安定 (1)複合経営モデルの作成及び活用 複合経営モデル活用農家リストの更新 (4~5月) リストアップ農家との面談 (6~9月) モデル活用実践のためのフォローアップ (9~3月) (2)栽培管理技術の徹底及び新技術等の導入 巡回指導・生育調査 (4~12月)、現地検討会 (5~9月) 集出荷場点検 (4~12月)、ほ場・農薬保管庫・調製場点検 (6月) 目標設定個別面談 (1月) (3)担い手の確保 農家等からの情報収集 (4~12月)、就農相談会等での推進 (6~11月) 空きハウス等の情報共有 (4~6月)、指導農業士の推薦 (7月)</p> <p>3 多様な担い手によるユズ産地の維持 作業受委託希望農家のほ場確認 (4~9月)、作業受委託のマッチング (10~11月)</p> <p>4 放棄茶園の再生と産地の維持 中切り後の栽培管理指導 (4~3月)、優良茶園情報の整理 (4~3月)</p>
--------------------	--

所内体制	経営・担い手担当 (集落営農担当兼務) : 1名、果樹担当 : 1名、作物 (茶) 担当 : 1名、野菜担当 : 3名 (1名は果樹担当兼務、1名は作物 (茶) 担当兼務)、地域営農担当チーフ : 1名、産地育成担当チーフ : 1名 <u>(合計) 6名</u>
------	---

連携推進体制の整備	<p><津野山地域営農連絡協議会> 梶原町、津野町 JA高知県津野山営農経済センター 須崎農業振興センター</p> <p><協議内容> 町、JA、県が連携し、農家の所得確保、農地の維持に向けて計画を協議・策定し実施する。</p>
-----------	--

令和2年度 普及指導活動実績の概要一覧

須崎農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	考える担い手がつくるミョウガ産地の発展支援	7	5.1t以上の農家戸数	94戸 (H31園芸年度)	95戸 (R2園芸年度)	88戸 (93%)	△	篤農家での実証ほ調査により、高収量の環境制御技術データを分析。環境測定装置を用いて、特に温湿度管理を目慣らし会や現地検討会等で指導したが、夏期の高温により目標を達成することができなかった。	
			茎頂点培養株の作出	0	1系統	4系統	○	県内の優良系統を収集し、農業技術センターの協力により、茎頂点培養で作出した4系統を須崎市内で試験中。	
			花蕾腐敗低減のための洗浄水水質調査件数	17戸 (H31園芸年度)	50戸 (R2園芸年度)	51戸	○	水質検査キットを用いた水質調査結果により、花蕾腐敗の原因が把握できた。その結果、部会で水質検査キットによる水質調査に取り組むことになった。	
			IPM技術マニュアルの改訂	作成済み	改訂	改訂	○	天敵によるハダニ類やモトジロアザミウマの防除効果について、実証ほでの調査結果に基づきIPMマニュアルを改訂した。マニュアルは全戸に配付し、害虫抑制に役立っている。	
重点2	多様な担い手による中山間農業の再編	6	複合経営モデルに取り組む事例	—	活用事例1	活用事例1	○	複合経営モデルを作成し、農作業受委託に関するアンケート調査結果に基づき、マッチングを行い、活用事例を作ることができた(1事例:米ナス+ユズ収穫作業)。	
			ミョウガ栽培管理技術の向上【収量】 土耕4t/10a以上、養液5t/10a以上達成農家率	11戸/20戸	12戸/17戸	12戸/17戸 (50%)	○	生育初期や盛夏期の高温対策、病害虫防除など、目慣らし会や現地検討会、個別巡回による指導、環境測定装置を活用した篤農家技術の情報提供により、目標を達成することができた。	
			米ナス栽培管理技術の向上【収量】 9t/10a以上達成農家率	4戸/13戸	7戸/12戸	5戸/12戸 (71%)	△	生育初期での草勢管理の重要性が理解されたが、梅雨の長期化や夏期の高温により、目標を達成することができなかった。天候や生育ステージに応じた肥培管理、夏期の高温対策などの指導を強化する。	
			甘とう栽培管理技術の向上【収量】 6t/10a以上達成農家率	5戸/25戸	12戸/25戸	9戸/25戸 (75%)	△	梅雨の長期化による落花や夏期の高温による尻腐れ果の発生等により、目標を達成することができなかった。生育初期の草勢強化、灌水・肥培管理や夏期の高温対策などを重点的に指導する。	
			担い手の確保	新規就農者数	2名	3名	○	農家等からの情報収集や就農相談の実施など、関係機関との連携により、新規就農者を3名確保することができた。	
			電子マップを活用したほ場情報整理 (ホィンティング及び情報整理が進みマッピングした農地数)	300カ所	20カ所	134筆 (茶) 221筆 (ユズ) 182筆 (ハウス) 計)537筆	○	収集した農地(ハウス)情報を、電子マップを活用して、ほ場の位置やその他情報を集積し、データベース化することができた。その情報を必要に応じて提供できる態勢が整った。	
農作業受委託の仕組みづくり(ユズ収穫作業)	—	仕組みができる	試験的収穫作業受託	○	アンケート調査による委託農家の掘り起こしで、ユズ収穫作業受委託を試行的に実施することができた(委託:3戸、受託:JA青壮年部2人、個人農家1人)。				

一般1	促成キュウリの収量向上 (JAくろしお)	3	1月末時点収量 6.7t/10a達成農家数 (戸)	52戸 (過去5カ年 平均)	55戸	89戸	○	部会平反収(1月末時点) 6.8t→7.5t 環境測定装置や炭酸ガス発生装置の導入農家が増え、天敵 導入率も向上した。
一般2	促成シトウにおける収量の向上 (JAくろしお)	1	1月末時点収量 2.7t/10a達成農家数 (戸)	10戸 (R元年度)	12戸	13戸	○	ハウス内環境データを調査分析し、その結果に基づく温湿度 などの環境制御技術の指導(個別巡回)により、目標達成で きた。
一般3	ニラの生産力向上(JAくろしお)	2	平均収量	5.5t/10a	5.6t/10a	5.5t/10a (98%)	△	環境測定装置導入農家は3戸で、環境データを活用した栽培 管理の普及が遅れている。
一般4	高知県版GAPの推進 (JAくろしお園芸部5部会)	7	改善実施農家数	—	150戸	198戸	○	農業安全使用について点検シートを活用し、推進した結果、 農家の意識が向上し、農業残留事故件数が0件となった(生 産履歴記帳率100%)。
一般5	担い手の確保・育成	7	所得目標の達成戸数	3戸/9戸	6戸/9戸	3戸/9戸 (50%)	△	各農家と経営目標を設定し、個別巡回により重点的に指導し た結果、3戸は規模拡大による経費の増大、単価安、難防除 害虫の発生等により目標を達成できなかったが、3戸につい ては所得目標を達成することができた。
一般6	大野見米のブランド化 (おのおのみエコロジーファーマーズ)	3	エコ米生産量	11.3t	12.0t	10.7t (89%)	△	栽培暦の作成や穂肥検討会の実施、個別巡回指導により、 栽培管理の徹底を図ったが、9月以降の天候不順とトビイロ ウンカの被害により、目標収量を達成することができなかった。 次年度は、トビイロウンカ対策の徹底に努める。
一般7	集落営農組織等の組織化の推進	3	集落営農組織等の新 規設立数	0	1	1	○	梶原町の(一社)津野山畜産公社の各部門の構想作成を支 援し、中山間農業複合経営拠点として位置づけることがで きた。
一般8	集落営農組織等の活動支援	6	経営の安定化 (複合経営拠点)	経営安定 化 1	新たな 経営安定 化 1	新たな経 営安定化 対策 1	○	(株)村営みのりの経営安定を目指し、飼料用米の多収米品 種「歓喜の風」の実証試験を行い、既存の品種より増収で あった結果により、次年度は10数haで栽培することとなった。
一般9	地域農業を支える仕組みの構築	2	中土佐町における地 域農業戦略の作成	アンケート 調査結果 まとめ	地域農業 戦略(案) の作成	地域農業 戦略(案) の作成	○	アンケート調査や人・農地プランの集落座談会による課題や 意向を踏まえ、地元の集落営農組織とJA出資型法人等との 組織間連携について合意形成を図り、地域農業戦略(案)が 作成できた。
一般10	6次産業化の推進 (オーキッドフジタ)	2	販路数	3か所	5か所	5か所	○	対象を6次産業化支援チームに位置づけ、アドバイザーから の助言を生かし、新たに販路2か所を開拓することができた。

令和3年度 普及指導活動計画の概要一覧

須崎農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1	考える担い手がつくるミョウガ産地の発展支援 (JA土佐くろしお園芸部ミョウガ部会)	6	反収5.1t以上の農家戸数	88戸 (R2園芸年度)	100戸 (R3園芸年度)	lop実証農家での生育と環境調査(巡回調査) データ駆動型農業の現地指導(目慣らし会、現地検討会等)による現地指導	
			優良種根茎の品質評価指標の検討(CO2施用効果)	—	1	炭酸ガス施用による種根茎のデンプン含量効果の検討(成分分析調査)	
			花蕾腐敗対策の改善実施農家数	0戸 (R2園芸年度)	10戸 (R3園芸年度)	花蕾腐敗対策の周知(目慣らし会、検討会) 各作業工程での水質調査の実施(個別巡回)	
			難防除害虫対策に向けたIPM技術マニュアルの更新	作成済	改訂	天敵製剤による防除効果の検証(現地調査、検討会)	
			経営改善目標の達成農家数	候補選定	3戸/5戸	農業基礎講座の検討・周知・開催(打合せ会、講座) 目標設定農家へのフォローアップ(個別面談・指導、検討会)	
重点2	多様な担い手による中山間農業の再編 (JA高知県津野山ミョウガ部会、なす部会、甘とう部会、ユズ部会、茶部会)	6	複合経営モデルに取り組む事例	活用事例 1	新規活用事例 1	活用農家候補の検討・取組推進・実践へのフォローアップ(連絡会、面談、調査、打合せ)	
			ミョウガ栽培管理技術の向上【収量】 土耕4t/10a以上、養液5t/10a以上達成農家率	71% (12戸/17戸)	76% (13戸/17戸)	環境測定装置による篤農家管理データの活用(生育調査、情報提供) 栽培管理技術の徹底及び新技術等の導入(現地検討会、目慣らし会、個別巡回、総会) 高知県版GAPの推進(現地巡回、点検、反省会、総会)	
			米ナス栽培管理技術の向上【収量】 9t/10a以上達成農家率	42% (5戸/12戸)	67% (8戸/12戸)	栽培管理技術の徹底及び新技術等の導入(現地検討会、目慣らし会、個別巡回、総会) 高知県版GAPの推進(現地巡回、点検、反省会、総会)	
			甘とう栽培管理技術の向上【収量】 6t/10a以上達成農家率	36% (9戸/25戸)	48% (13戸/27戸)	栽培管理技術の徹底及び新技術等の導入(現地検討会、目慣らし会、個別巡回、IPM調査、総会) 高知県版GAPの推進(現地巡回、点検、反省会、総会)	
			新規就農者数の確保	3名	2名	市町村・JA等との連携による情報収集と協議(連絡会等) 確保に向けた募集と体制整備(広報誌、就農相談会、農業体験)	
			ユズ農作業受委託の仕組みづくり(マッチングできたユズ園数)	試験的収穫 作業受託	2カ所	部会の体制整備に向けた協議(連絡会、役員会) 受託先の掘り起こし(連絡会、農家等からの情報収集) 収穫作業受委託の実施(PT会)	
			1月末時点収量 7.3t/10a達成農家数(戸)	76戸	78戸	IOPプロジェクトの実証(生育調査) データ駆動型農業の実践支援(現地検討会、個別巡回)	
一般1	促成キュウリの収量向上 (JAくろしお)						

一般1	促成キュウリの収量向上 (JAくろしお)	3	IPM技術による黄化え そ病対策へも取組農家	32戸	35戸	黄化えそ病対策の周知(JA広報誌掲載、チラシ配付) 技術指導による対策の徹底(現地検討会、個別巡回)天敵利用 技術の実証試験によるIPM防除マニュアル作成	
一般2	促成シシトウにおける収量の向上 (JAくろしお)	3	1月末時点収量 2.7t/10a達成農家数 (戸)	13戸	14戸	IOPプロジェクトの実証(生育調査、個別巡回) データ駆動型農業の実践支援(現地検討会、個別巡回、視察 研修)	
一般3	ニラの生産力向上 (JAくろしお)	2	平均収量(1月末)	2.6t/10a	2.7t/10a	環境測定装置導入農家の調査事例に基づく管理技術の改善 及び電照栽培マニュアルに基づく現地指導(現地検討会、個別 巡回)	
一般4	高知県版GAPの推進 (JAくろしお園芸部5部会)	8	改善実施農家数	198戸	274戸	推進方法の共有(連絡会、協議会) 啓発資料の提示、取組の周知(現地検討会、個別巡回、総会、 中間検討会)	
一般5	担い手の確保・育成 (JAくろしお管内の就農5年目までの新規就農 者)	7	所得目標の達成戸数	3戸/9戸	6戸/8戸	関係機関との情報共有と協議(幹事会) 就農相談、就農計画作成支援(個別面談) 品目・経営担当者による栽培・経営指導(個別巡回) 基礎知識の習得支援(農業基礎講座)	
一般6	大野見米のブランド化 (おのおのみエコロジーファーマーズ)	3	エコ米生産量	11t	13t	育苗管理、本ほ管理など栽培技術の徹底(個別巡回、検討会、 委員会) 地域外との交流活動支援(田植え、稲刈り) 米コンクールへの出展支援(委員会、コンクール参加)	
一般7	集落営農組織等の組織化の推進	3	集落営農組織等の新 規設立数	1	1	集落営農塾組織化編、広報誌等による集落営農の推進・組織 化の検討(研修会、打合せ、準備会、視察研修等)	
一般8	集落営農組織等の活動支援	6	集落営農組織等のス テップアップにつな がる活動支援	法人化に合 意できた新た な組織数 -	1	栽培品目の技術指導、既存組織への運営支援(法人意向アン ケート調査、集落営農塾、研修会、先進地視察、役員会、総会)	
			複合経営拠点(2)の 経営安定化に向けた 課題・対策	-	課題解決(案) 提案		【(株)村営みのり】 飼料用米の収量向上対策支援(実証ほ設置・調査、まとめ) 【(-社)津野山畜産公社】 ワイン用のブドウ栽培管理技術(現地指導)、マニュアル作成
一般9	地域農業を支える仕組みの構築	3	中土佐町における地 域農業戦略の策定	(案) 策定	策定	地域農業戦略作成への支援、戦略活動の進め方協議(意見交 換会、打合せ、連絡会)	
			(株)村営みのりでの 地域農業戦略の策定	-	策定	課題の整理・地域農業戦略の作成支援、戦略活動の進め方協 議(打合せ、連絡会、関係機関での協議)	
一般10	スマート農業の推進 (農事組合法人 大野見野の風、水稻大規模農 家他)	4	ドローン防除面積	44ha	50ha	年間計画の確認、チーム活動の検討(チーム会) スマート農業技術(実演会ドローン、ラジコン型草刈機、アシスト スーツ)の収集及び情報提供(市長再生協議会幹事会・総会、 部会反省会)	

令和3年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

須崎農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担	●広域の中山間農業をサポートするには、職員数15名では少ない。
	・活動の進ちよく管理の体制	●定例会、チーム会などで進捗管理ができています。重要課題のチーム会は月1回では少ない ●タブレットの活用など、情報共有できる方法を工夫する
	・普及指導員の資質向上の取組	●資質向上の取組も若手のアイデアを取り入れ、地域に見える化をすすめるなど具体的な活動ができています ●OJTを重視した対応で資質向上に努めている。
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	●山間部の農業振興という課題に対し、主要品目を軸に計画が良く練られている ●多様な担い手による中山間地期の取組として、複合経営モデルの取組は良い。時代に合わせた品種選定やチャレンジ意識が少なく感じた
	・対象の設定	○地域おこし協力隊への支援は、山間地域のすばらしい取組である
	・関係機関との連携	○空きハウスや耕作放棄地などのマッピング情報をJA、役場と共有することで新規就農者へ情報提供ができています
普及指導活動の成果	・目標設定	●数年後のゴールに向けた年ごとの目標設定ができています ●産地の維持を目標に設定し、その具体的な手段が特定されている
	・活動の経過	○農業に携わらない移住者も多いので、アルバイト等で活用できるように情報提供等を検討する
	・実績（活動の結果）	●「普及活動のふりかえり」は結果だけを書くのではなく、目標に届かなかった原因も記載すること
	・成果（目標達成状況）	●この課題はすぐに結果が出ないので、地道に取り組んで欲しい ●前年度の天候不良による結果を今年度の活動に活かすなど、成果を意識して活動している
・結果の周知		
外部評価、総合所見等 ○振興センターの存在価値がますます重要になると思う。こうした取組により明日の農業に希望が持てる ●収穫作業の受託の拡大は、持続可能な農業には有効であり期待している ●中山間地域の農業を守ることは重要で、中山間地域を多く抱えている高知県の課題である。担い手の確保、所得確保など関係機関と課題を共有、連携し、津野山地域がモデルとなるように一層がんばって欲しい ●安定収入のあるミョウガ、ナス、甘とうの各部会の力をユズや茶にまわすなど、地域複合体で生き残りを図ることを考えます		